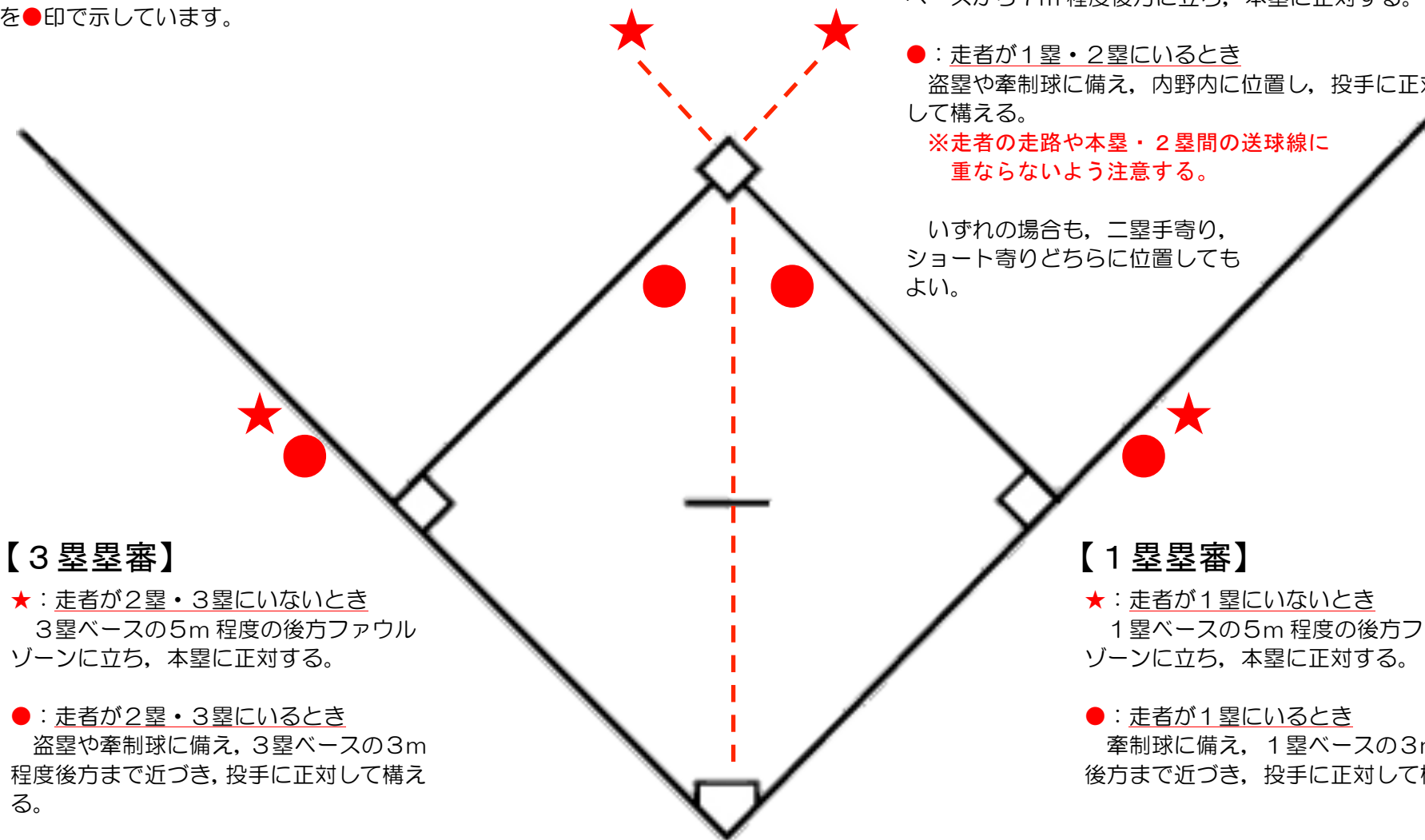


塁審の立ち位置について

投手が投球する以前の塁審の立ち位置は走者の位置によって変わります。どの塁審も、走者がいない場合は本塁に正対し、走者がいる場合は投手に正対します。

下の図では、定位置を★印で、盗塁や牽制球に備えた位置取りを●印で示しています。



【2塁塁審】

★：走者が1塁・2塁にいないとき
1・2塁ベースもしくは3・2塁ベースの延長線上、ベースから7m程度後方に立ち、本塁に正対する。

●：走者が1塁・2塁にいるとき
盗塁や牽制球に備え、内野内に位置し、投手に正対して構える。

※走者の走路や本塁・2塁間の送球線に重ならないよう注意する。

いずれの場合も、二塁手寄り、ショート寄りどちらに位置してもよい。

【3塁塁審】

★：走者が2塁・3塁にいないとき
3塁ベースの5m程度の後方ファウルゾーンに立ち、本塁に正対する。

●：走者が2塁・3塁にいるとき
盗塁や牽制球に備え、3塁ベースの3m程度後方まで近づき、投手に正対して構える。

【1塁塁審】

★：走者が1塁にいないとき
1塁ベースの5m程度の後方ファウルゾーンに立ち、本塁に正対する。

●：走者が1塁にいるとき
牽制球に備え、1塁ベースの3m程度後方まで近づき、投手に正対して構える。